



さくらの森

編集・発行元 社会福祉法人京悠会 埼玉県所沢市下富1206-1 TEL04-2990-1133



梅雨寒の中、円野の中庭で一輪の睡蓮が咲きました。
”優しさをもって、互いに信頼を深め合いましょう”

感謝

稲盛和夫

どんな境遇にあらうとも、
愚痴や不平不満を
漏らさず、
常に生きていること、
いや、生かされていることに
感謝する。

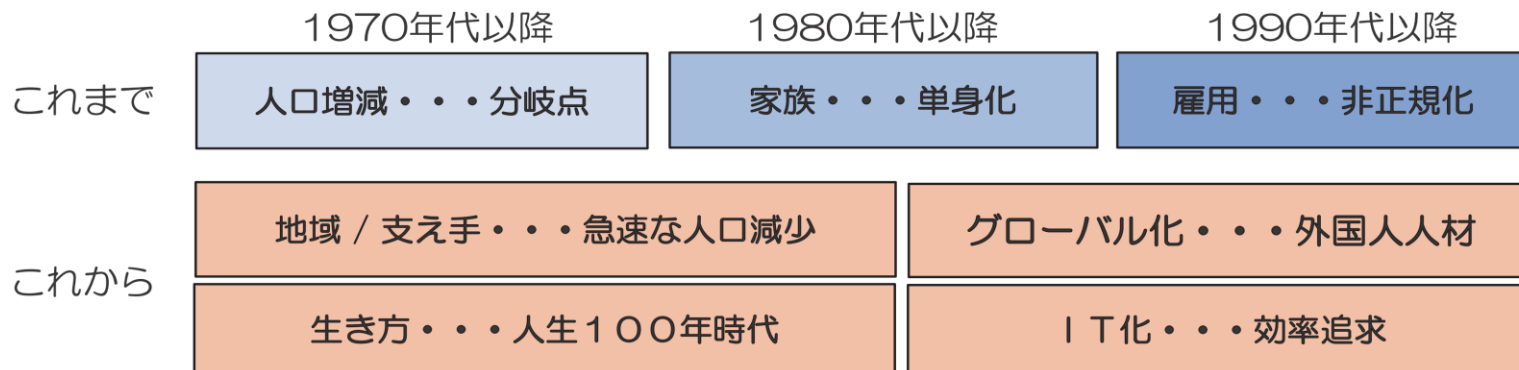
そのようにして
幸せを感じる心を
養うことによって、
人生を豊かに潤いのある
素晴らしいものに変えて
いくことができるのです。



第40回 医療・福祉フォーラム 講演会報告

去る6月7日、日本赤十字社で開かれたフォーラムにて、厚生労働省老健局の大島一博局長による講演会に参加しました。充実した多くの内容から、これからの課題について、その趣旨を紹介いたします。

2040年に向けた社会経済の変化



現下の介護の大きな課題

① 人手不足

② 認知症

③ 財政の持続性

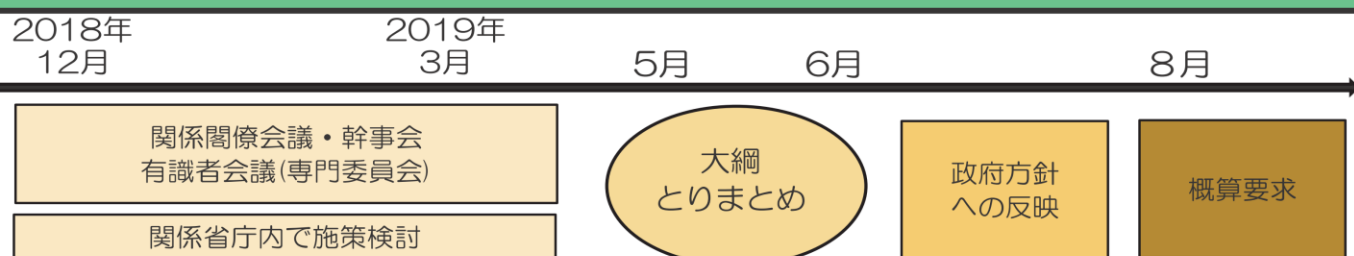
人手不足への対応

- ・介護職員賃金の引き上げ
(※2019年10月にも)
- ・介護業界の3Kイメージの払拭

一体的に改善

- ・各介護施設における「専門職の業務」と非専門職の業務の仕分け
- ・IT、センサー等による記録入力の業務、夜間業務等の省力化
- ・高齢者の就労拡大
- ・外国人就労拡大(新在留資格)

認知症施策の新大綱政策の動き



認知症施策の今後の方向

共生



予防(発症の後送り)

(例)

【市民参加の拡充】

- 認知症サポーターを増やす。加えて、希望者には認知症者の見守りなど直接的な支援を担っていただく。

【「生活バリアフリー」の推進】

- 国交省、経産省、金融庁等の協力の下、認知症者が買い物や金融機関・交通機関などを、スムーズに利用できる環境づくり。

(例)

【研究開発】

- 予防、治療に関する研究を強化し、予防に関するエビデンスの収集を進める。

【体操等行える身近な場の提供】

- 予防因子として、運動、食事、交流、糖尿病予防、難聴対策等が指摘されている。
- そのため、身近な歩いて行ける範囲にたくさんの通える場を作り、週に一回以上一時間程度の身体を動かす機会を提供する。

「つれづれなるままに ～認知症を語る～」

【第2回】ヒトは、他人のことを認知症と言えるでしょうか・・・その1

“認知症”という言葉を考えてみましょう

ここに「つれづれなるままに～認知症を語る」の第2回目をお届けします。

気温差が大きかった春先に比べ、5月の新緑、6月の深緑、6月から7月にかけて梅雨の季節を迎えています。私が、いま勤務しています秋田は、東京より1週間ほどの遅れで梅雨入りしましたが、今年は北九州や中国・四国、近畿より早い梅雨入りとなりました。

さて、第2回目となる今回は“認知症”という言葉について、考えてみましょう。

認知症の語源・由来をひも解くと～ ラテン語が発祥 発音が微妙

明治末期以降「痴呆症」が定着
平成14年に「認知症」へ変更



皆さんがよく耳にされる“認知症”という言葉は、どうやってできたのでしょうか？ その由来をひも解いていきましょう。

この言葉は、ラテン語「de mens(absence of minds) (和訳：心あらず?)」に由来する英語の「Dementia」の日本語訳です。この英語の発音がいつも微妙で、海外に行くとデメンシャという人、デメンチアという外国人がいます(笑)。どちらが正しいのでしょうか？

日本では以前、「痴呆(ちほう)」あるいは「痴呆症」と呼ばれていました。



大田秀隆(おおたひでたか)
秋田大学高齢者医療先端研究センター長・教授。
72年生まれ。福岡市出身。
東京大学大学院医学系研究科加齢医学専攻終了(医学博士)。
日本医療研究開発機構臨床研究課主幹。
厚生労働省老健局などを経て18年6月から現職。

明治5年の「医語類聚(いごるいじゅ)」という本には、「狂ノ一種」と訳されていたそうです。医学用語としては、「痴狂」や「瘋癲」、「痴呆」等々と訳されてきましたが、明治の末期に精神科医で有名な呉秀三(くれ しゅうそう)先生が「痴呆(ちほう)」という言葉の提唱され、それが一般化していったそうです。長期にわたり日本で痴呆(ちほう)という言葉が使われてきました。ところが、世間的に「この表現は、よくない!」ということで、平成14年に厚生労働省の「痴呆に替わる用語に関する検討会」で、一般市民からも広く意見を募集し、正式に「認知症」という言葉に変更されました。

「痴呆症」から「認知症」へ。 この表現も良くないと思う

差別的だといわれて変更された「認知症」という言葉。この言葉もまた、医者である私の立場から言うのもおかしいのですが、「認知症」という言葉はあまり良くない、と思っています。今回はこの続きを書こうと思います!!(つづく)

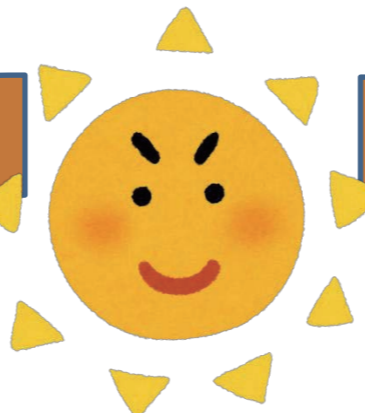
編集長ひとくちコメント：明治の末期から平成までの長い間「痴呆症」と呼ばれ、定着していました。症状表現が、今から17年前に「認知症」と読み替えられました。でも、この表現もあまり良くないと思います。どう表現するのがベターなのでしょうか…
”人間の尊厳”という観点から考えることが、「認知症」を患っておられる方々への配慮というものではないでしょうか。

円野

施設のくらしの物語

真和の森

起きる前に整容しましょうね～



朝の口腔ケアは、肺炎予防にもなりますのでしっかりと！



♪いい湯だな～♪
お風呂に入って、身体も気持ちもすっきり



お風呂大好き！



楽しみにしていたお食事の時間ですよ。たくさん食べてください



施設における日々の暮らしを綴ってみました。

沢山のスタッフに支えられて、今日も元気で～す♪

カレーうどん美味しいです！

いっぱい食べてね！



歯医者さん



お歌の先生



ボランティアさん



お医者さん



リハビリの先生

丁寧に丁寧に...
菖蒲の花を咲かせていきます



手を上にグーっと伸ばしましょう



ボッチャで楽しく盛り上げてます。



おやすみ～☆
また明日♪

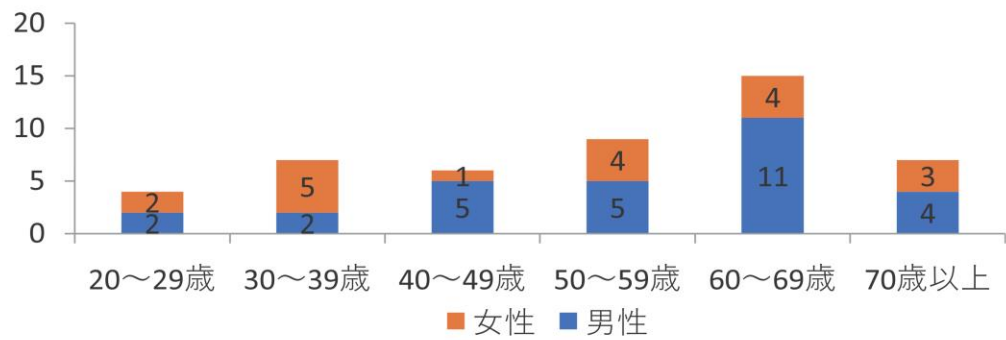


本日の営業は終了しました🌙
楽しい夢を...



平成30年度 入所者さまの姿を報告いたします **円野**

①年齢別にみる男女数



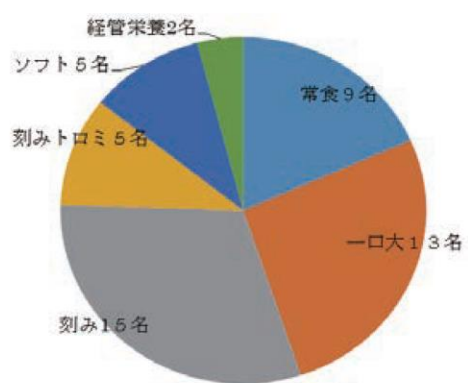
「円野」の入所者も高齢化が目立ち、50歳代から60歳代中心に、65歳以降の高齢者がふえてきています。

9割の方が区分6となっています。

②障害支援区分

性別	男性	女性	全体
人数	29	19	48
障害区分	区分6	16	43
	区分5	3	4
	区分3	0	1
	平均	5.8	5.8

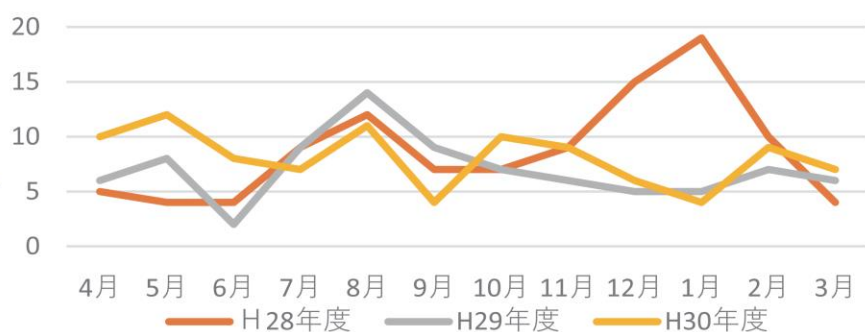
③食事の形態



食事を楽しむことは健康の全てです。円野も17年目を迎え高齢化し、食事も刻みトロミ、ソフト食など多様化してきました。

受診者はインフルエンザでH28年度は高まりましたが、29年度から30年度は落ち着いてきました。

④受診者延べ人数



『防災訓練』
飯能日高消防署の協力の下、以下の項目を実施しました。

- 1 火災訓練
- 2 消火訓練
- 3 心肺蘇生法
- 4 備蓄の確認

4つの訓練をしっかり身につけました。すべては、安全第一の目線を大切にしましょう。

研修報告
『虐待防止について』
身体的虐待・殴る蹴るなどの暴行を加えることで、何が起きるのか。反面教師として学ぶことが多くありました。

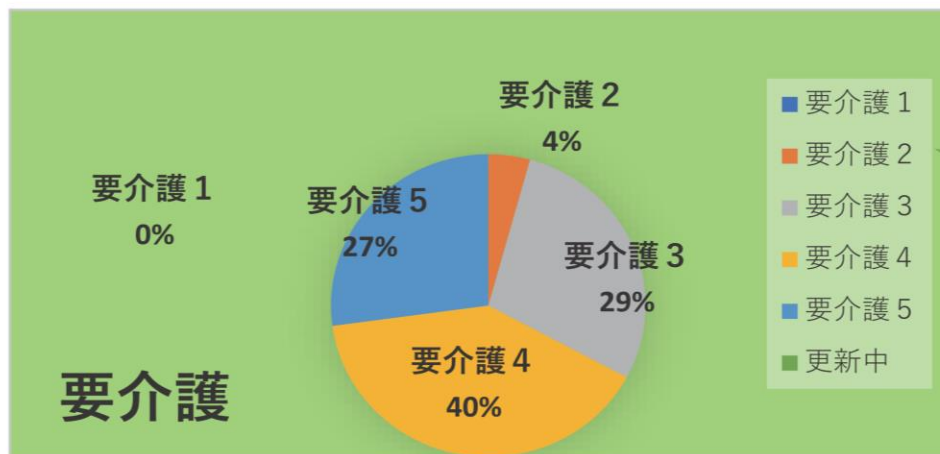
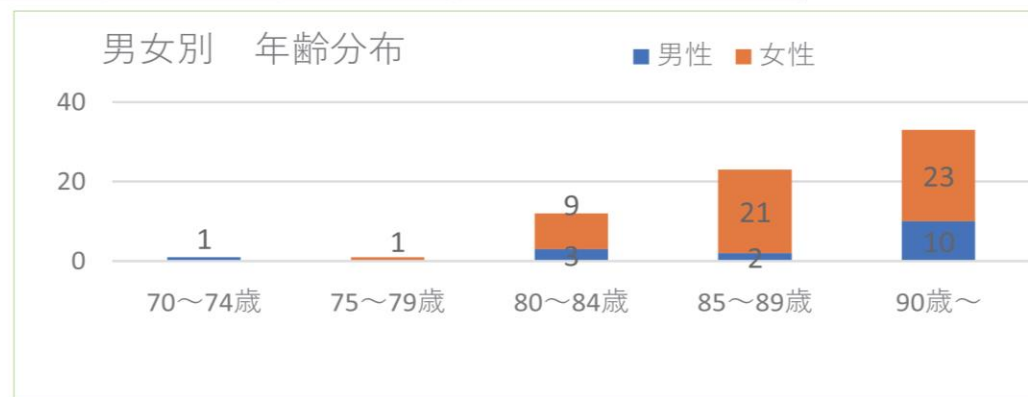
『自分でできる食中毒対策』
気をつけよう！ 身近に発生する食中毒！

梅雨の時期を迎えています。みんなで食中毒に気をつけましょう。

【特別養護老人ホーム部門】 70床

年齢構成	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	計
男性	1	0	3	2	10	16
女性	0	1	9	21	23	54
計	1	1	12	23	33	70

男性	16人
女性	54人
合計	70人



平成28年4月の法改正より、原則「要介護3以上」が入所要件となりました。緊急時などの例外もあります。

平均要介護度	4.0
平均年齢	88.8歳
平均在所期間	905日

【看取り部門】

退所者(看取り対応者)	23人
看取り平均対応期間	316日

【ショートステイ部門】 30床

平均要介護度	3.1
男性(平均/月)	15.3人
女性(平均/月)	29.0人

研修報告

『排泄ケアについて』

当施設では埼玉県社会福祉協議会等が行う研修の他に、施設内部でも様々な研修を職員が率先して行い互いに勉強を重ね、日々自己研鑽に励んでいます。

今回はおむつを取り扱う業者さんをお招きして、職員の排泄ケアにおける研修を行いました。みんな真剣に話を聞いていました。



『勉強会』

常日頃から職員間で勉強会を開催、みんな熱心に聞いています。看取り、事故、援助におけるのマナーなど内容は様々です。

真和の森が開設8年目を迎えました！



特別養護老人ホーム「真和の森」は、お陰さまで、令和元年6月1日で開設8年目を迎えることとなりました。

当日は、松花堂弁当をご用意して、この日を無事に迎えられたことを利用者さまと共にささやかなお祝いをしました。

「愛に生きる」という理念のもとに、緑豊かなこの地に開設し、これまでたくさんの方々に関わらせていただけてきました。職員が利用者さまを介護をするという一方的な関係ではなく、利用者様と「共に生きる」とはどういうことなのか、これからも自問自答しながら、よりよいサービスを提供できるよう努力して参ります。

今後のスケジュール

◆ 円野 ◆

行事

- 7月 七夕
- 8月 夏祭り
- 9月 防災訓練

職員研修

- 7月 身体拘束について
- 9月 急変時の対応について



◆ 真和の森 ◆

行事

- 7月 七夕 家族会
- 8月 納涼会
- 9月 敬老会

職員研修

- 7月 熱中症について
- 8月 排泄ケアについて
- 9月 ケアについての振り返り



編集後記

ここに京悠会広報誌第6号をお届けします。広報誌を発行して1年3カ月。表紙は、障害者施設「円野」や特別養護老人ホーム「真和の森」の入所者様、ご利用者様とともに四季折々の季節感溢れる自然などを表現してきました。また、両施設での日常生活を写真中心に可能な限り身近な暮らしを実感できるよう編集しました。これからは皆さまの期待に応えられるよう努力してまいります。ご支援のほどよろしくお願い致します。

障害者支援施設 円野
〒357-0011 埼玉県飯能市川崎458
TEL042-975-3300 FAX042-975-3311
最寄り駅：高麗川駅（八高線）

特別養護老人ホーム 真和の森
〒359-0001 埼玉県所沢市下富1206-1
TEL04-2990-1133 FAX04-2990-1144
最寄り駅：新所沢駅（西武新宿線）

<http://www.kyoyukai.jp/>